

旭川実業高等学校 男子バレーボール部の歴史

年度	男子バレーボール部の歩み
昭和35年	本校開校と同時に(3名)でスタートする。 当時は練習場所もなく、仮校舎である信行社での練習であったため、もちろんコートもなく、校舎前の広場を利用した軽い基礎練習にとどまっていた。
昭和36年	自動車実習棟(自動車科)の横にコート作りからの大変厳しい部活が始まりました。やがて部員も増え、昭和37年に学生時代も活躍した監督を迎え、高体連旭川地区予選会へ初出場。上川高校と対戦し初の1勝をあげるなど、次代のバレー部の基礎を築き、昭和44年に退く。 その後、新たなスタートは、旭川地区大会優勝、全道大会を目指し、礼儀を重んじるチーム作りを目標に練習に励む。
昭和44年	荒井 清 監督 就任
昭和45年	◎国体旭川地区予選会 2位 全道大会出場を逃す。 ◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会地区予選会) 初優勝。 ◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:釧路市) 初出場 1回戦 1-2(岩見沢農業) チームのマナー、技術共に優れたこのチームを次の目標に、選手の自主性により頭髪を丸刈り、雪辱を期し練習に励む。
昭和46年	◎高体連旭川地区予選会 初の完全優勝 ◎高体連北海道予選会に初出場(稚内市) ベスト8。再び岩見沢農業と対決、接戦するも雪辱ならず。 ◎国体旭川地区予選会 2位
昭和48年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:岩見沢市) 2回戦
昭和49年	◎高体連旭川地区予選会 優勝 ◎高体連北海道予選会(函館市) ベスト8 ◎国体北海道予選会(小樽市) ベスト8
昭和50年	◎昭和50年より春の高校バレー(選抜優勝大会)は南北海道・北海道大会に分かれる。
昭和57年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:釧路市) 準優勝
昭和58年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:滝川市) 準優勝 ◎高体連北海道予選会(妹背牛町) ベスト4 (3位) ◎国体北海道予選会(岩内町) ベスト16
昭和59年	◎高体連北海道予選会(函館市) ベスト8 ◎国体北海道予選会(岩見沢市) ベスト4 (3位)
昭和60年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:旭川市) 準優勝 ◎高体連北海道予選会(帯広市) ベスト16 ◎国体北海道予選会(小樽市) ベスト16
昭和61年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:帯広市) ベスト8 ◎国体北海道予選会(旭川市) ベスト16
昭和62年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:釧路市) ベスト16
昭和63年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:赤平市) ◎国体北海道予選会(苫小牧市) ベスト16
平成元年	◎高体連北海道予選会(旭川市) ベスト16 ◎国体北海道予選会(釧路市) ベスト8
平成4年	◎国体北海道予選会(旭川市) ベスト8
平成6年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:釧路市) 1回戦
平成7年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会) ベスト16
平成11年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:富良野市) 準優勝
平成16年	◎高体連北海道予選会(帯広市) ベスト16(準優勝校:東海大四に敗退) ◎国体北海道予選会(苫小牧市) 2回戦(北海高校に敗退)
平成18年	◎荒井 清 監督 勇退、佐藤 仁 監督 就任。 ◎北海道高等学校バレーボール新人大会(赤平市) ベスト4 淵陵・双葉、札幌工業、尚志学園を倒し、とわの森に敗退。
平成19年	◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会:旭川市) 平成18年新人戦ベスト4に入り、北海道協会推薦出場
平成22年	春の高校バレー(選抜優勝大会)は南北海道・北海道大会に分かれていた大会が南北統一となる。 ◎春の高校バレー(選抜優勝大会北海道予選会) 出場
平成23年	◎第2回横田忠義杯高校男子バレーボール選手権大会(中札内村) 初優勝 旭川実業、第2位 帯広工業、第3位 白樺学園 ◎北海道高等学校バレーボール新人大会 北海道大会(深川市) ベスト4 (優勝 とわの森、第2位 札幌藻岩、第3位 東海大四、第4位 旭川実業)
平成24年	◎平成24年度 北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会 北海道予選会(北見市) ベスト8 ◎第3回 横田忠義杯 高校男子バレーボール選手権大会(帯広市) 優勝 旭川実業、第2位 意匠南、第3位 白樺学園 ◎春の高校バレー(全日本バレーボール選手権大会) 北海道 代表決定戦(札幌市) 学校対抗 3回戦
平成25年	◎平成25年度 北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会 北海道予選会(深川市) ベスト8
	現在、部員16名で練習に励んでいます。

